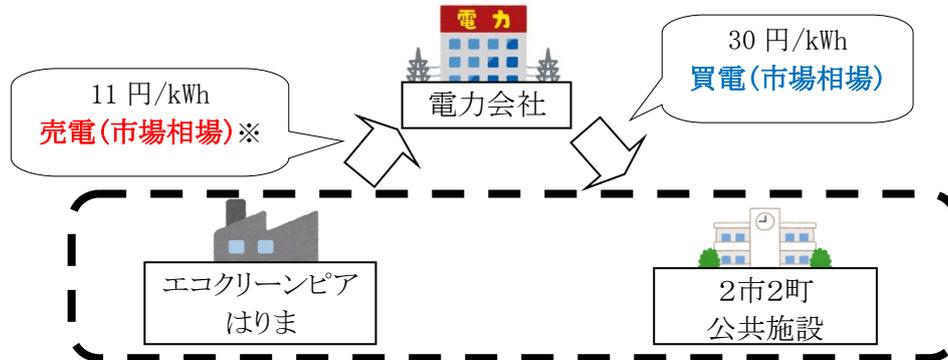


エコクリーンピアはりま発電電力の地産地消について

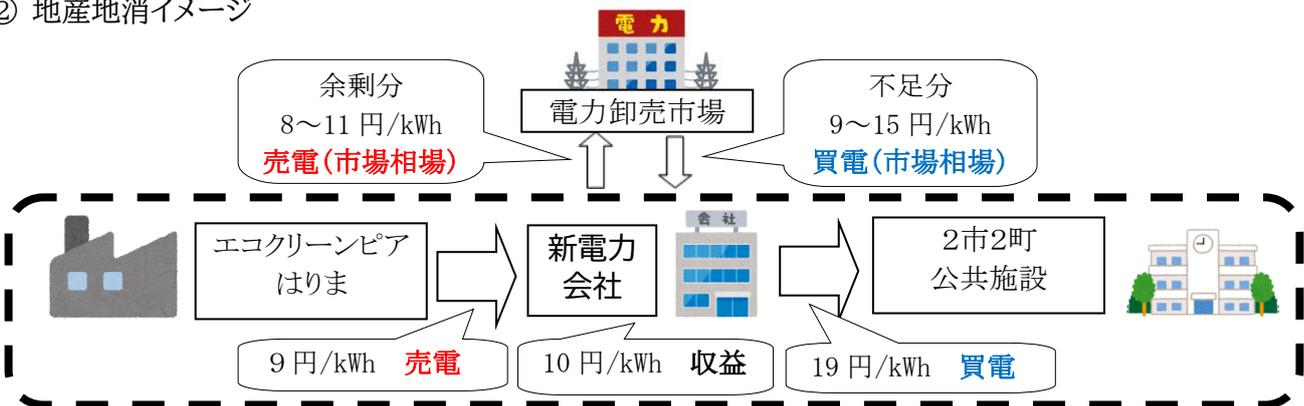
1 発電電力(非FIT売電分)地産地消の考え方

① 現行イメージ図



※ 現在 21 円/ kWh で売電しているが、ウクライナ情勢が落ち着き、最近の相場は 10～13 円

② 地産地消イメージ



※ 電力単価は仮定の金額である。ウクライナ情勢が落ち着いて市場価格は通常に戻りつつある。しかし、FIT売電単価は下がる一方で再生可能エネルギーは増加する中での再エネ賦課金単価の動向や、2028(令和 10)年に導入予定の化石燃料賦課金により、今後電力単価は増加傾向になると考えられる。

2 加古川市における電力地産地消のメリット

- ・ 今後、高騰が予想される電気代を安価にグリーン電力(自然エネルギー由来)に切替
※ごみ焼却時にCO₂ 排出はカウントされるが、蒸気発電時にCO₂ 排出はカウントされない。
⇒ごみ量割(63%)では、本市で 1,855 万kWhの調達となり全小中学校の電気代相当
- ・ 市役所のCO₂ 排出抑制に貢献
⇒年間 1,855 万kWhの調達は約 4,100tの CO₂ 排出削減効果であり、2030 年度削減目標(対 2013 年度▲14,000t)の 29%相当

3 電力地産地消の課題

- ・ 新電力会社の選定(運営への関与(委託、3セク)、利益分配、リスクヘッジ)
- ・ エコクリーンピアはりまの発電量の見込みと公共施設への供給先の選定(デマンド調整)
- ・ 今後、2市2町の意思決定と運営への関与方法、組織体制